

3 Jomon Times

vol. 145

広報 縄文村だより vol.145 (3月号)

平成30年3月1日
●編集・発行●
奥松島縄文村歴史資料館
東松島市宮戸字里81-18
TEL 88-3927 FAX 88-3928



企画展

縄文人のからだのひみつ

始まりました!!

これまでに発掘された縄文人骨の数は5000体とも6000体ともいわれ、そのほとんどが貝塚から見つかっています。日本の土壌では、骨は何十年かの間に土中で腐蝕してなくなってしまうのですが、貝塚では多量の貝殻によって土が中和されるためよく残ります。しかも、貝殻のカルシウム分が骨にも浸み込み、質感のある状態を保ってくれるため、貝塚には縄文人の生々しい姿が残っているのです。このため、のちのどの時代の人々よりも、人骨にかかわる多くのことが解明されています。

今回の企画展では、宮戸の縄文人を中心に、さまざまな角度から「縄文人のからだのひみつ」に迫ります。



JOMON-INFO

第5回 ヤマザクラ植樹祭のお知らせ

「宮戸島をサクラが咲く島へ」を目標に活動している「ヤマザクラ2011本プロジェクト」。今年も元気に育った木を植える植樹祭を行います。一緒に植えませんか?

開催 3月18日(日) **時間** 9:30~12:00 **参加** 参加無料/事前申し込み制
問: 0225-88-3927

春休みは縄文体験♪

春休み期間(3月24日~4月8日)は毎日、縄文体験ができます!
【受付時間】9:00~15:00(12:00~13:00はお休み)
【メニュー】まがたま・シカ角ストラップ

まだまだ「ホネ」は語ります…。ぜひ企画展へ! 4月15日まで開催中!!

ホネは語る! 縄文人の顔かたち

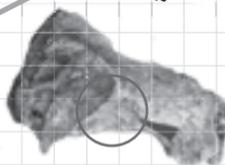
大きな頭に、寸詰まりの幅広い顔。高く盛り上がった眉間に、鼻筋の通った彫りの深い横顔。噛む力が強く、発達したエラの張る頑丈な下あご。歯並びは良好で、上下の前歯が毛抜き状に噛み合っており、軽い受け口のように見える口もとをしていました。

ホネは語る! 縄文人のからだ

縄文男性の平均身長は157~162cm、女性は147~149cm。身長が低いわりに、脚や腕が相対的に長く、筋肉質でとくに下半身は発達していたようです。野山を駆けめぐるクロスカントリーの選手のような体形だったと推定されています。



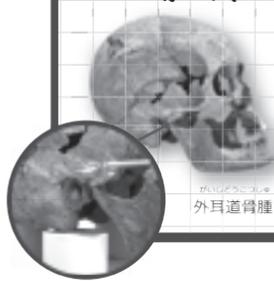
骨からわかる縄文人の妊娠・出産。ホネは語る!



妊娠出産の跡が残る骨盤(左側寛骨)・40代女性

一般に女性が妊娠すると、骨盤の関節部分の靭帯が膨らみ、胎児が骨盤を通り抜ける際には骨盤が開き、その過程で骨にくぼみや溝状の痕跡が残るとされています。里浜の40代女性の骨には深く幅広い痕跡が残されており、複数回の妊娠出産を経験したことがわかります。

骨に残された縄文人の生業と生活のあと。ホネは語る!



外耳道骨腫

このほかにも、木の実などデンプン質の食料を多くとっていたことによる「虫歯」や歯が摩耗しすぎて感染症にかかり「歯槽膿漏」になった跡、素潜り漁をする人に特徴的にみられる「外耳道骨腫」、転んでけがした時の「骨折」の跡が残る骨など、縄文人の暮らしの一端を知ることができます。

ホネを学ぶ! 縄文村講演会

「縄文人のからだのひみつ」開催。

1月28日(日)、企画展開催を記念して、縄文村講演会を開催。澤田純明氏(新潟医療福祉大学)による「縄文人の顔とからだ」、五十嵐由里子氏(日本大学松戸歯学部)による「骨からわかる縄文人の妊娠と出産」と題した講演をしていただきました。

聴講された皆さんは、骨から縄文人の身体的特徴やすがた、妊娠出産の痕跡など、縄文人の骨から様々な情報が得られることに驚いた様子でした。講演会後は、公開されたばかりの企画展を先生方に解説していただきながら見学。実物を見ながら、より理解を深めていました。



もっと知りタイ! 地域おこし協力隊 (第11回)

■問 地域おこし協力隊事務局 復興政策課地域振興班 ☎内線1233

ひらやま たけし
平山 剛さん(54)

多くを学び、これからが本番

食品流通



仙台市出身の平山さんは現在宮戸地区に住み、漁師の方々に受け入れてもらいながら漁業について学んでいます。学生時代から東京で暮らし、食品関係を扱う会社で営業職などを30年以上経験。東松島市で食品流通に関するスキルを活かしたいと協力隊に参加しました。

「都会生活が続く中で、古里の宮城県に戻って仕事したいとの気持ちが強まりました。そして被災地の役に立ちたいと思いました。そんな時に東松島市の地域おこし協力隊の制度を知り、昨年に移住しました。

最初の3か月間は研修で市内6か所を回り、地域の農業、漁業など多くのことを学んできました。「地域の人たちにさまざまなことを教えていただきながら、人間同士のつながりの大切さを改めて学んでいます」と語ります。

協力隊の活動はまだ始まったばかりです。それでも食品流通に関わる知識や経験が豊富なことから、地域の食材や食品に目を向けて新しい手法を模索しながら農家や漁師の方々と交流を深めています。

「自然の豊かさ、そこからもたらされるさまざまな恵み、何よりの魅力です。それを活かした地域おこしを目指し、今後を見据えて準備を進めたいです」と熱意があふれます。地域の人々としてどっしりと腰を据え、多くの人たちと絆を深めながら未来を見つめています。